

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100400		
法人名	有限会社 花のある家		
事業所名	グループホーム 花のある家		
所在地	〒849-0306 小城市牛津町勝813-2		
自己評価作成日	平成30年1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年2月13日	外部評価確定日	平成30年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・施設内に併設している家庭菜園で収穫された野菜も調理に利用しています。・昨年は人手不足で外出行事が一部出来ませんでした。人員補充され次第行いたいと思っております。・月に1回の昼食レクレーションも人出不足で回数が少なかったですが人員補充されたい行いたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の周りは民家や田園が広がっており、散歩の途中に近所の方から花をもらったり、移り変わる田園風景から四季の変化を感じることができる。近くの神社までは、良い散歩のコースでもあり、地域住民と一緒に夏祭りを楽しむこともできる。</p> <p>日々の支援にあたって、「利用者の残存能力を引き出し、穏やかに人間らしい尊厳を保ちながら、家庭的な雰囲気の中での暮らしを提供することを大切にしている。利用者が職員に「心を開いてくれる」のも、利用者に対する支援の現れでもある。「施設サービス計画書」は、本人と家族の要望や課題を踏まえた具体的で実現可能な計画である。医療、食事、排泄、入浴、外出等の支援も希望を大事にして、柔軟に対応している。「思い出の場所訪問」を企画し、利用者がかつて暮らしていた所を訪ねたり、つぶやきの中に何回も出てくる場所までドライブをしている。災害対策では、火災時の避難訓練だけでなく、水害に備えてのマニュアルもあり、独自に自主避難訓練を実施している。昨年の大雨時には、行政からの避難準備段階で、いち早く、指定されている避難場所に避難を開始している。また、福祉施設や高齢者避難対策について、命を守ることを第一にして行政に要望書を出し、実現されている。運営推進会議で話題になった散歩に利用する道路の補修も、いち早く出来ている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口、ホールに理念を掲示している。一人一人の人間としての尊厳を重視したケアを行い、理念の実践に向けて取り組んでいる。	事業所開設時以来、基本的には変わらない理念で、地域との交流も踏まえている。理念は、いつも目につきやすい所に明示しており、職員は常に理念を意識しながら支援にあたっている。管理者は日々のケアの中や、介護計画立案の段階で、具体的に理念を話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は夏祭りに参加出来ませんでしたが寄付金の形で協力しており、毎月区長さんが市報配布で来所されている	地域の自治会にも加入し、交流を心がけている。地域の情報は区長や民生委員、地域住民でもある職員からもらっている。近所の方から花や種、野菜をいただくこともある。地域の清掃等は、免除していただいているが、職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしていない	家族代表も出席しての極めて有意義な会議がもたれている。大雨の時の避難状況の様子や避難所の食事等の問題点を行政へ要望したり、散歩の際に通る道路の補修、外出先として適当かの地域住民ならではの具体的な情報等、地域と関連する話し合いも多い。訪問散髪、利用者の特別食事、予定行事の延期、制度改定に伴う利用料金等の変更など、サービスに関連する議題も話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に「おたっしゃ本舗」と民生委員さん及び区長さんへの参加要請をしており、市町村との協力関係の構築に積極的に取り組んでいる	運営推進会議で行政と、利用者の状況、事業所の実情や課題を共有することも多い。災害対策に伴う問題点、生活保護に伴う書類等の提出、介護計画の変更などで、直接に市役所の担当課に出掛けることも度々である。また、電話で連絡を取り合う機会も多い。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車イスベルトで身体拘束の方の拘束時間短縮だけでなく昨年9月に安全に終了する事が出来ました。	これまでの研修や定例の会議等を通じて、全職員が身体拘束に伴う弊害を十分に認識している。左記の拘束例は家族と十分に話し合い了承を得てのやむを得ない事例である。玄関に昼間は施錠がなく、センサーや職員の見守りで対応している。外出には職員が後ろからついて行きながらの支援である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成25年2月より「虐待の芽チェックリスト」を活用し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	充分には支援出来てない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しており、また運営推進会議の内容を施設内玄関口に置いて公開している	何よりも、家族の面会時に心優しく、何でも相談できる雰囲気づくりを心がけている。職員の笑顔での明るい対応は、家族に訪問のしやすさを感じさせている。契約時に苦情相談の窓口についてもきちんとした説明が行われている。ご意見箱にあった玄関マットの要望については、即、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員参加での会議を開催している	定例の会議、業務引き継ぎ時、日常の会話の中で、意見や提案が出されている。入浴支援時にボディソープを使用したり、敬老会のお祝いとして利用者の思い出の場所を訪問支援したのは、職員からの意見反映の一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務時間中での外部研修講習の機会を確保し定例会議で発表を行っております		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の方が多数参加される外部主催の研修講習参加で同業者との交流の機会を作っており取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている	散歩や毎日の食材の買い物と一緒に出掛けている。その際、馴染みとなった方とのあいさつや言葉を交わしている。思い出の場所訪問に、かつて住んでいた地域や、つぶやきの中で出てきた場所を訪ねている。行きつけだった美容室へ出掛ける方もいる。知人が面会に訪れることもあり、ゆつくりと時間をとっての面会の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご希望・必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている	利用者の担当制は採らずに、全職員が利用者の思いや意向を共有し、把握している。寄り添っての会話やつぶやき、ちょっとした表情の変化や行動からも把握に努めている。利用にあたっての基本的な情報も十分に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている。	利用者と家族の意向を十分に反映し、基本情報や課題分析を踏まえて、サービス計画書が作成されている。支援目標やサービス内容は具体的で、実現可能な計画である。計画作成にあたっての担当者会議には、家族も参加している。評価、計画の見直しも、定期的、あるいは状況に応じて随時、きちんと行われている。介護経過の記録は、時系列の記録から、総合的に記録できる方式に工夫、改めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	許される範囲内で取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している	利用者・家族の希望する病院での診療である。協力医療機関とは、夜間を含め、何時でも相談できる関係にある。2週間に一度の定期的な訪問診療で、家族も安心感をもっている。救急の場合は、職員が病院まで同行し、状況等を主治医に伝える等の支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる	特に文書化した指針はないが、入居時に重要事項として十分に説明し、家族にも納得してもらっている。看取りについては、これまでに事業所で最期をむかえた方もあり、家族、主治医、その他の関係者とその時の状況に応じて連絡、相談をしながら、安らかな最期を見送っている。家族も共に泊まっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成26年1月からスプリンクラーを設置しており災害計画と避難マニュアルも作成しており法令に沿って訓練も実施しております。	年に2回消防署の立会いで夜間想定避難訓練を実施している。過去に大水の歴史もあり、行政と連絡を取りながら大水等に備えている。昨年の大雨の時は、避難準備情報発令段階で、避難の準備をし、タクシーと職員の車で、避難場所へ避難している。自然災害対応のマニュアルもあり、地域や行政とも相談しながら、見直しもしている。非常用の飲料水にスポーツドリンクを備蓄している。	
が					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る様に努めております	利用者の「尊厳」を尊重することを基盤としており、利用者一人ひとりの個性を大切にした支援が実践されている。言葉かけや接遇ひとつをとっても、誇りを傷つけないようにと留意している。個人情報の確保や秘密保持もきちんとできている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけられる様に努めております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る様に努めております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る様に努めております		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲で行っております	職員は見守りながら、食事介助や食べこぼしなどに何げない様子で支援をしている。台所からの調理の音や香りは、食事の楽しさを増している。利用者が食事に集中できるような配慮がある。テレビは消して、童謡を流している。利用者の食事後に職員も利用者と同じ食事を摂っている。職員と一緒に、野菜の下ごしらえや洗い物を拭いている方もいる。食卓には事業所の菜園で栽培した野菜がのぼったり、また、家族や近所の方からの野菜、肉、卵の差し入れもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援できるように努めております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な範囲で行っております		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	支援できるように努めており、平成27年7月より紙パンツ対応から肌着パンツになられたお方は、夜間失禁が頻繁に確認された為に昨年11/25から夜間のみ紙パンツ使用をしておりますが、随時状況確認を行い自立に向けた支援に努めております。	利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を個別に把握し、定時にトイレ誘導をしたり、尿意を察して言葉かけをしている。失禁が明らかに減ったので、紙パンツに変更した利用者もいる。夜間だけトレーニングパンツを着用したり、センサーマット的なものを使用するなど、自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでおります		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は勤務体制で日中の入浴になっている。入浴は2日に1回と施設サービス計画に入れている	基本的な入浴日はあるが、お湯の準備は毎日できており、入浴希望の方には何時でも応えることができる。入浴時間帯は午前中だが、ゆっくりと入浴してもらって、午後になる利用者もある。入浴順番や入浴時間に特に決まりはなく、希望に応じた入浴支援である。ヒートショックや湯あたりにも、脱衣場の室温や体を温めてからの入浴するなどの十分な配慮がある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援できるように努めております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	随時努めております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援できるように努めております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲で支援しております	利用者の希望を聴きながら、買い物や事業所周辺の散歩に出掛けている。近くの神社までは良い散歩コースである。「何時になったら、買物に行くね」と職員に尋ねる方もいる。梅の花や桜、コスモス見学等に出掛けたり、事業所から直接バルーンを見ることもある。近くの温泉の足湯に出掛ける計画もあり、外出場所によっては家族の協力を得たり、地域や市役所に要望して散歩道の補修が早速実現した事例もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な範囲で支援しております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な範囲で支援しております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫できるように努めております	室内は静かで明るく、外からの騒音もない。室温調整も各部屋ごとに行い、快適な温度を保っている。居間には、ソファ、テーブルが程よく配置され、利用者は思い思いに過ごしている。テレビを置いてあるが、利用者が視聴する以外は、電源は切られており、新聞や佐賀の昔話の本も見られる。玄関には季節の花のプランターが置かれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫できるように努めております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫できるように努めております	使い慣れた品物等の持ち込みに特別な制限はなく、各居室が家族の協力で、その方らしく、ゆっくと過ごせる場所になっている。長年使っていた時計、古い小箆笥、椅子、鏡台、お気に入りのたくさん服などいろいろな物が見受けられた。家族写真は家族との絆をうかがわせる。以前にその居室で使われていた整理ダンスをうまく利用している居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫できるように努めております		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない